



気象予報士

石橋武宣

西端中学校での3年間が 自分の原点になっています

問 経営企画課広報戦略係 ☎ 95-9867



とにかく楽しかった中学生時代

「碧南で思い出の場所は？」と聞かれたら、迷わず母校の西端中学校と答えます。比較的新しくできた学校のため、建て替えなども行われておらず、自分が通っていた頃と今でも何も変わらない景色です。

中学生時代はとても充実していて、とにかく楽しかった思い出がいっぱいあります。

1978年愛知県碧南市生まれ。26歳で気象予報士を取得。民間気象会社を退社後、フリーの気象予報士として東海3県を中心に小中学校の講演会やイベントなどでも大人気で、今年1月には市主催の生涯学習講演会にも登壇していただきました。



石橋さんの母校 西端中学校



中京テレビ「キャッチ！」の様子

人前に出たがる性格だったこともあり、2年生の時から生徒会に入っていました。2年生の前期で書記、後期では生徒会長をやっていました。体育祭や文化祭では、先生に決められたことをやるのではなく、全て生徒で何をやるかを企画していました。

自分たちで決めることは今では当たり前前のことかもしれませんが、中学生時代の経験が、自分で考えて前に進む力を育ててくれたと思っています。

30歳の時に「立志の塔」で再会

西端中学校では、卒業間際に未来の自分宛に作文を書きます。そして、中学校の敷地内にある「立志の塔」にその作文を保管して、15年後、30歳になる年の8月に当時の作文を取り出します。

中学生の自分が書いた作文には、「将来テレビに出て、キャスターになる」と書いてありました。とても驚きましたが、なんとか今、実現できているなと思います。

同級生とも久々に再会できますし、とても思い出深い行事でした。

気象予報士のお仕事

毎週月曜から金曜までは、夕方の情報番組でお天気キャスターをしています。土日には小中学校で講演会を行うこともあります。なるべく専門用語は使わずに話したり、身近にあるものを使って雲を作ってみる実験を行った

りして、少しでも天気に関心を持つてもらえることを心掛けています。最終的には天気への関心が、防災意識であつたり、温暖化に関する問題意識などにつながってくれたらいいなと思っています。

碧南のお天気豆知識

休日には、よく市内を散歩していますが、大浜地区を散歩していた時に、珍しいものを見つけました。それは旧大浜警察署前にあるバロメートル（気圧計）です。

基準となる針に対して、計測針が右側に傾いていたら気圧が高く天気が安定した状態、左側に傾いていたら気圧が低く天気が不安定な状態ということです。



今年1月に開催した生涯学習講演会

を示しています。

今は、テレビやインターネットで毎日天気予報が見られますが、昔はリアルタイムで見ることはできませんでした。警察署や消防署などの公共施設の掲示板に天気予報が張り出されていたようです。この場所にバロメートルが置かれていたのも、海岸付近に警察署があつたためかもしれません。

昔の大浜の漁師さんたちは、ここで気圧を見て天気を確認してから、船に乗って漁に出たといわれています。

天気予報を通じて、天気を知ることの大切さや、もちろん碧南市の魅力も発信していけたらと思います。みなさんこれからも応援よろしくお願いします！



旧大浜警察署前のバロメートル

気象予報士 石橋さんTwitter

